

第27回日本臨床皮膚科医会総会・学術大会

シンポジウム10第1部

第27回日本臨床皮膚科医会総会・学術大会が6月11、12日に大阪市の大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で開催された。シンポジウム10「学校保健と在宅医療の現状と皮膚科医の役割」の第1部では、「学校保健」をテーマに4人の演者が講演。座長の一人である西井貴美子・西井皮膚科クリニック院長に、その概要(抄録)を聞いた。

学校保健

〈抄録〉

座長インタビュー

西井皮膚科クリニック

西井 貴美子院長



第1部で取り上げられた話題は、学校保健の中で論議されることの多い頭ジラミ、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)とエピペンの処方、水いぼ(伝染性軟属腫)の治療方針だ。「第27回日本臨床皮膚科医会総会学術研究班を立ち

頭ジラミ・エピペン・水いぼ… 学術研究班の調査結果報告

西井座長は話す。

上げ、本医会学校保健委員会と共同で、これらの現状や問題点についてアンケート調査を実施しましたので、その結果を私から報告させていただきます」と西井座長は語る。調査対象は無作為抽出の会員500人。うち458人から回答があった。

では頭ジラミの集団発生を防ぐ対策として、豊中皮膚科医会と教育委員会、小学校・幼稚園・保育所との連携システムを構築し、互いに患者情報を共有。情報に基づき、患児周辺を早期に一斉検査するとともに、他の罹患児には皮膚科受診と加療を進めることにより、蔓延防止を図り、成果を上げてきたという。

「これが『頭ジラミ対策豊中方式』と呼ばれるものですが、今後の課題としては医療券の対象に頭ジラミも加えること。医療券は経済的困難を抱える家庭の児童生徒に、公費で治療ができるように配布されるものですが、現在、皮膚科疾患では白癬、疥癬、とびひ(伝染性膿痂疹)の3疾患しか対象に入れられておりません。会員への調査でも、頭ジラミが対象となれば、早期対応が一層進むと、この提案に約9割の方が賛同しています」(西井座長)

「ただ、圧除去は患児の苦痛を伴ったため、近い将来に新たな治療法が開発されることを期待したいと思います」(西井座長)